

No.120

# 公民館だより

平成16年3月

宮津市字由良  
由良の里センター内  
由良地区公民館

## 高齢化社会に生きる

由良地区公民館長 飯澤登志朗

宮津市における高齢者対策について第五次宮津市総合計画では基本施策として「高齢者が幸せに暮らせるまちづくり」があり、高齢者が元気で活躍できる社会参加の場や機会づくりを進めるとして主な施策が示されています。

さらに公民館が関係する社会教育では宮津市の「高齢者福祉計画」の趣旨を踏まえ、高齢者が生き生きと生活するための学習活動や社会参加を促進すると記されています。

由良地区公民館では、昭和六

十年代の「公民館だより」に高齢化に対する考え方や行動が綴られています。現在より活発に前向きに対処されていることが窺えます。

当時（昭和六十年頃）の高齢化率は20%、五人に一人が高齢者であったものが、現在では33%となり三人に一人が対象になります。

後継者問題を始め空家や独居老人の増加は顕著に表れています。全国的にみても防犯があります。全国的にみても所謂「オレオレ詐欺」による

被害が増加し、由良地区でも一人暮らしを狙った訪問販売が横行しています。

自治学級では、下水道整備等環境問題や地域の活性化等の意見が主となっていますが、最近の傾向として地域医療や福祉についての要望が多くなっています。

その他色々な意見や要望が出されていますが、二〇五〇年頃ピークに達するであろうといわれている少子高齢化時代にこの由良地区がどんな姿になっているのか窺い知ることには出来ません。

先に述べたように高齢化30%余りですが行政のいう65才以上を高齢者としての考え方に疑問を感じている人は多いと思います。定年を迎えて第二の人生として就農されるケースは多いと思いますし、悠々自適できる世情では決してありません。

世界一の長寿国であることを自慢しても年金や医療費、介護等厳しい時代は急速に近づいて

います。

「あなたはお年寄り？」と聞かれてすぐにイエスと答える人は少ないように一瞬考えてしまいうようです。健康で長生きしたい、みんなが願うことですが殻に籠もらず人のなかで刺激を受けることが健康で居られる条件の一つだと思います。

人の集まりのなかで自分の考えを述べ妥協しない、この傾向は男性に多く見られますが何でも多数決に従うのではなく、頑固に意見を通そうとするのも少数派の特徴ではないかと思えます。また、一方ではお年寄りの知恵を活用しようという動きもあります。

長年培ってきた経験や技術を次代に引き継ぐことは大切であり公民館でも活動のなかに取り入れていきたいと考えています。自分は若いとか、年寄りだとか、ではなく、自分は元気なのだと意識して高齢化社会を生きたいと願っています。

# 行事報告

主 事 枝 川 隆 亮

◎十月十五日(水)

## ミニバレーボール教室

地区公民館では、生涯スポーツの普及と地区民の健康づくり推進の一環として、市教委の指導のもとミニバレーボール教室を開催することになりました。八名の指導員の指導により第一回の講習会が実施できました。子どもを含め四十余名の参加者が大いに未知のスポーツを体験しました。

コートも狭くネットも低くボールもやわらかく、だれにでも手軽に楽しめるスポーツであると認識しました。日ごろの運動不足が少しだけ解消できたようです。八回に分けて教室を実施しました。

◎十月三十一日(金)

## 福井県若狭地区公民館との交流会

若狭地区公民館の代表者十八名による表敬訪問を受けて、当公民館では、館長以下三名が対応し交流会を実施しました。

若狭地区の各公民館は資金面において余裕のある公民館が多く、行事等運営が楽である印象を受けました。館の立地条件、活動の拠点の相違はありますが、公民館に対処する基本・根本の精神は同じであり各公民館とも、自治連との連携を図りながら、地域住民とともに活動をされております。今後、機関誌などの相互交流を図り、交流を密にしてゆきたいと思えます。

◎十一月三日(月)

## 文化祭

昨年は残暑のなごりが永く続き、ようやく朝晩に秋の深まりを感じる中、恒例の文化祭を開催しました。

地区の高齢化が進む中で、この文化祭は地区住民のふれあいの場であり、人々が和む姿を終始見ることができたことは喜ばしいことです。

この文化祭で意欲満々、行動力に満ちた大作や発表を見るのができました。幼小中学生も日頃の勉強や練習の成果が見事に作品に発揮されていきました。

今年には出展が多く、展示パネルを増設し対応しました。

・ 出展数 (出展者数)	49点 (49人)
絵 画	111点 (111人)
習 字	30点 (30人)
工 作	11点 (5人)
ちぎり絵	25点 (25人)
生け花	

油 絵 2点 (1人)

パッチワーク2点 (1人)

出展数 (出展者数) 合計は

265点 (232人)、他に食改グループの参加 (食品展示、説明) がありました。

◎十一月十五日(土)

十一月二十二日(土)

## 子ども料理教室

子供会連絡協議会との共催で「子どものびのび体験活動」事業として、料理教室を里センターで2回に分けて実施しました。

サークル活動「食改ちどり」の先生の指導により、小学低学年にも理解でき、こなせる内容で挑戦していただきました。

六年生をリーダーとし班編成し作業を分担、なれない手つきで包丁を使う人、顔に水をかぶりながら野菜を洗う子など、約三時間貴重な体験をしていただきました。

# 御礼

平成十五年十二月、四方寿朗先生から写真集「丹後由良」(A4判・二三一頁)を由良地区全戸(四三〇)に頂戴いたしました。

由良の魅力が半世紀にわたって収録されています。風景・伝統行事、地区民の表情など懐かしい写真が一杯いです。

先生は昭和四十一年から五十二年まで由良地区公民館長として、由良岳登山をはじめ区民交流の輪を広げながらスポーツ振興や地域文化の向上に明るい活動を展開されました。

喜寿を迎えられた先生のこの写真集は地域の歴史を長く後世に伝える貴重な資料であり財産です。先生の益々のご活躍を祈念しながら厚く御礼申し上げます。

由良地区公民館長

飯澤登志朗

## ◎十一月十六日(日) 歩こう会

実施予定日の変更を重ねて、晩秋の時期、西風が強く寒い日の実施となりました。

中学校文化祭・子ども会行事など、実施日の変更でも参加者が少人数になりました。

今年度は「水」をテーマとして取り組みました。

創業一八三二年の醸造元で軟水・硬水や「水」の大切さの説明を受けました。

お不動さんから如意寺に移動、京都府指定文化財の「身代わり地蔵」や脇の金毘羅宮では明治初期まで由良の船頭の幅広い活躍ぶり、また浜公園では、かつての由良の実業家「澤井市造翁」の碑、「山椒太夫」文学碑、「由良の門」歌碑、他に伝説の跡地などの説明を「歴史をさぐる会」の会員さんからきかせて頂き、解散しました。

## ◎十二月七日(日) 第21回市民卓球大会

毎回由良チームは、優秀な成績を残しておりますが、今回も団体戦では準優勝、個人戦では川崎清さん、日比道栄さんが優勝、中西一義さんが三位入賞と大健闘でありました。

出場された選手の皆さんの健闘を祝します。

由良地区チーム参加者  
(順不同・敬称略)  
川崎 清 熊田良雄  
中西一義 日比道栄  
藤井 忠

## ◎一月十一日(日) 成人式

平成十六年に成人の日をお迎えになられた皆さん、誠におめでとございます。

これから大人の一員としての権利と義務・責任ある社会人の一員として、大らかに羽ばたいてください。

由良地区新成人のかたがた  
(順不同・敬称略)

津田樹里 竺原加奈  
濱田和邦 中西勝宏  
岸田成史 大森大輔  
足立祐也 山田恭三  
酒本真理子 千阪拓史  
柴田麻衣 岸田 諭  
岸田祐佳

## ◎二月一日(日) 四部対抗囲碁大会

冬の恒例行事、囲碁大会が二月一日、里センターで開催されました。

団体戦では、昨年同様一部が優勝、個人戦では、一部の中西衛さんが優勝されました。

以上の結果を報告します。  
(敬称を略します。)

団体戦	個人戦
優勝 一部	中西 衛
準優勝 二部	熊田良雄
三位 三部	西之上熊吉
四位 四部	

## わたしの大切なもの

由良小学校長 倉野英明

我が家の二階に上がる階段の横に、古びて、いかにもみすぼらしくなった作業服が掛けてあります。畑仕事やイカ付けなどの魚釣り、漁協に魚を買いに行くと時などにいつも着ていきます。振り返って思うに、その服は、かれこれ三十五年間も着ていることになりました。

苦学生といわないうまでも、遊びたい盛りの私にとって、それほど裕福でなかった家から届く仕送りだけで一ヶ月生活することとは難しく、土日や休みの時は、いつもアルバイトのガラス拭きに明け暮れていました。その会社は、主に官公庁の建物のメンテナンスを仕事としており、私たちバイト仲間は、主任の車に乗って、各市町に在る公共施設の窓ガラス拭きに行きました。

内側を拭くときはいいのですが、外側は、太陽が降り注ぐ時や冬の凍てつく寒さの時などは大変でした。それ以上にきつかったのは、外側に出て窓を拭くのにベランダや足を置くスペースがなく、ヤモリのように這いつくばって、窓枠などに手を掛け必死になって仕事をしなければいけない時でした。

しかしながら、4年間、他のバイトに変えることなく続いたのは、仲間と終わった後の歓談と風邪をひいた時など、下宿でせんべい布団にくるまって寝ていると、毛布を持って来てくれるなど私たちにいろいろと気を遣ってくれて、やさしくしてくれた主任がいたためです。その当時、アルバイト先の会社から支給されていた作業服が

その服です。よくもまあ、今まで飽きもせず使ったものだと、我ながら感嘆を込め思いますが、ほころびれば縫って直し、ボタンが取れば他のもので代用し、付け直しながら愛用しています。ペンキやイカの墨が付いたり、薄くなっていたりして、見るからにみすぼらしいため、家内などは、

「そんなの恥ずかしいから着ていかないで。」とか、

「他に着ていくものはあるでしょう。」とか、

とか、言いますが、そんな声に耳を貸さず着続けています。

その訳は、バイトといえども自分が仕事をして、なにがしかの金銭を得た時の服であり、自分の中にあの青春の頃の熱い思いと直情的な純な気持ちをお忘れなないといった決意に似たものがあるからです。

仕事に詰まったり、物事がう

まく運ばず、悩んだり、苦悶したりすることもよくありますが、そんな時、あの服を見ると不思議と夜を徹して、友と安酒を飲みながらお互いの夢を語りあつた学生の頃のことを少し感傷的に思い出し、

「こんなことでくじけてなるものか。」

と、勇気が湧いてきます。この仕事について、三十年近く経ち、教員生活も残り少なくなってきました。あの当時は、今とは違いさほど教師になるのは難しくなく、さしずめ私などは、もしかか先生ではなかったかなと思いますが、今、この立場に立ち、違う意味での「でもしか先生」を育てたいと思っています。

それは、「わたしにでもできる」という児童との関わりや指導面に強い自信と、「わたしにしかできない」という率先していろいろなことに挑戦できるたくましく生きる力(今年度の公民館だ

より第一号に掲載をもった「でも・しか」先生です。

早いもので、由良にお世話になって一年になろうとしています。この間、保護者・地域の皆様の幼稚園・小学校に寄せる温かいご支援御協力をいただき大変感謝いたしています。

昨今、安全であるべき学校もいろいろなことが起き、その対応に追われていますが、保護者・

地域の皆様に支えていただきながら、先行き不透明と言われる二十一世紀をたくましく生き抜く児童を育てるため、幼稚園・

小学校の教職員一丸となって由良の教育をさらに推進すべき努力をしていきたいと思っております。私もその先頭に立って、自分自身を奮い立たせながら、初心を忘れず教育に当たっていきたいと思います。

## 高齢者について思うこと

三嶋 安夫

由良地区における高齢者の状況について、最初に書き記すと六十五歳以上高齢者 四百七十五名、高齢化率は約三十四%、一人暮らし高齢者五十四名、寝たきり高齢者十名（昨年三月末現在）と云う事で少子高齢化は待った無し急速なスピードで進んでおります。

参考までに十四歳以下の子供の数は百六十五名と高齢者の数が逆で有ればと願うくらいですが、しかし高齢者にとっては幸いにもよい環境に恵まれ、元気に特別の問題も無く過ごされていることは、何より喜ばしいことと有ります。

由良地区は「はまなす苑」が

有るお陰で介護サービスや、介護に関する専従員の巡回指導を受けることが出来ますし、又各種団体で組織する由良福祉協議会、民政児童委員が各自治体有一名と、福祉対策は一様整って来たと思うが、しかし高齢者が楽しむべく憩いの場がすくないことが残念です。

約五百名近い高齢者が自由に集い語らえる場が欲しいもので

これは私の初夢ですが……農協の広大な跡地に多目的ホール、談話室、図書の閲覧、囲碁将棋、華道、茶道、カラオケ、軽音楽、喫茶、食堂、温泉入浴、等等、趣味など無い無関心派はゆつくりとテレビでも鑑賞しながら昼寝、晴れた日は外に出て駅前横広場でバトミントン、テニス、又土・日曜日は小学校のグラウンドをお借りしてのゲートボール、グラウンドゴルフ等楽しむことが出来る。リーダーは高齢者の中から特技を持った方々

にお世話に成り、月に一回程度は料理教室を兼ねた昼食会を、温泉入浴サービスはフリータイムとこんな理想を追って来ました。

地区高齢者が健康で余生を楽しく送る環境こそが大切で有ると知恵を出し合い考えるならば一歩ずつでも近づけるのではないでしようか。

家に閉じこもることのないようにと各自治体単位でサロン活動を企画し娯楽・リクレーションなど働き掛けては居りますがなかなか実を結ぶまでには遠いようです。

しかし先ずは健康なくして何事も出来ません。自分の体は自分で守ることこそが健康の根源であることを肝に銘じ、健康管理に努めて快適な日々を送れるようにし、助け合い支え合える、由良地区をより良い街にして行きたいと願うものである。

# おいしかった

五年 大森菜保子

## 料理教室に行つて

いす。地域の、おばちゃんたち、ありがとうございました。

ぼくは、あまり家で料理をや

わたしは、去年も参加していたので、今年は、何をつくるのかなど、思っていました。

一回目は、おすし、すまし汁、いがぐりあげをつくりました。わたしは、すまし汁をつくりました。とうふを切りました。いがんだり、大ききもちがつたりして、上手に切れませんでした。

「変な形。」

「太すぎやで。」

「細すぎやで。」

などと、いろいろ言っていました。だしは、ちゃんと出ていました。おいしいのができました。おすしも、いがぐりあげも、おいしくできていました。

二回目は、にんじんごはん、大豆の कोरोコ煮、パンプキンスープ、かんたんチーズケーキをつくりました。わたしは、か

んたんチーズケーキをつくりました。あまりやらないキウイのかわむきをしました。はじめは、えっ、わたしが……、と思っていました。でも、やりました。思っていたように、身も一緒にむいてしまいました。でも、やっているうちに、少しずつうすくなっていたのがわかりました。

その後、盛りつけするとき、キウイをのせました。残ったクリームをつまみぐいしました。おいしかったです。ほかのものも、おいしかったです。パンプキンスープがおすすめになりました。一回目も二回目も、おいしくできて、よかったです。一回目と二回目を合わせても、やつぱりパンプキンスープがおすすめです。

また、来年もあつたら行きた

らしてもらったことがないので、とても参考になりました。

一回目は、班に分かれてやりました。ぼくは、いがぐりあげの班でした。いがぐりあげを作る時、ハンバーグみたいでした。最後の時、油にいがぐりあげを入れたしゅん間、春雨がふくらんだのでびっくりしました。他の物もできて、みんな食べました。とてもおいしかったです。残ったおすしやいがぐりあげを家に持って帰りました。その夜、それをお父さんたちに食べてもらいました。

早くまたやる日にならないかなあと、心の中で思いました。

ようやく二回目できて、また班分けをしました。二回目は、

六年 吉岡隆文

パンプキンスープでした。けっこう難しそうだなあと、絵を見ただけで、ちよつとわかりました。最初にかぼちゃのかわをほうちょうでむくのが難しかったけど、なれたらけっこうできました。そして、野菜をいためて、そのあとに野菜をにこんで、ミキサーで野菜を細かくしました。おさらに入れて、みんなのもでき、食べました。味はじゃがいもがとけたざらざら感があつて、とてもおいしかったです。他のも食べておなががいっぱいになって、大豆のころこ煮を家に持って帰りました。そして、今年の料理教室は終わりました。またやりたいと思いました。

# よそ事ではない

## 「エイズ」

### 四方寿朗

二十三歳の女子大生Aさんは、将来を約束したボーイフレンドもできて、毎日が幸せだった。卒業近い正月休みに、仲良し四人組でハワイ旅行に出かけた。

夕食後の散歩に街へ出た四人は、ハンサムなサーフィン焼けた四人の青年から声をかけられた。旅に出た気安さ、誘われるままに、近くのバーで飲みながら話はずんだ。やがて、何となく気の合ったカップルが、それぞれ消えてゆく。明日はハワイともお別れ、他の友人もしている事だからと、誘われるまま、Aさんも彼の部屋へついて行った。彼は優しくかった。明け方近く、ホテルまで送ってもらった。

卒業して半年後、Aさんは結婚した。皆に祝福された結婚生

活はバラ色で、間もなく妊娠した。しかし「赤ちゃんが生まれる」という喜びの気持ちは一転して、暗黒の世界へ突き落とされた。産科の病院で受けた血液検査で、エイズウイルスが陽性に出たのである。

驚いた母親に問い質されて、Aさんは「たった一度の過ち」を涙ながらに告げた。念のため調べた夫の血液検査は陰性だった。思い悩んだAさんはマンションの屋上から身を投げた。母親はうつ病で精神病院へ入院した。(どうなるエイズより)

#### エイズの原因

一九八一年アメリカでホモや、麻薬常習者の男性が、多く肺炎で死亡した。二年後、患者の血液からウイルスが発見され、H

IVと命名された。HIVは人間の免疫の司令官を務めるリンパ球―ヘルパーT細胞―へ侵入して、これを死滅させる。こうして免疫力の低下した患者は、肺炎などの感染症で容易に死亡する。大変恐ろしい病気でエイズ「後天性免疫不全症候群」と名付けられた。

#### 患者数(二〇〇二年)

世界人口六一億中四二〇〇万人(1人/150人)

#### 内訳

- アフリカ 二九四〇万人
- 東南、南アジア 六〇〇万人
- 南米 一五〇万人
- 東アジア 一二〇万人
- 東欧 一二〇万人
- その他

現在日本国内でエイズ感染者は推定五〇〇〇人。毎年右肩上がりの増加で、二〇一〇年には五万人に達すると推測されている。

#### 症状

感染当初は風邪のような症状があるが、直ぐ治まる。其の後五年から十年の潜伏期を経てエイズが発症する。困るのは、この症状の無い長い潜伏期の間にも、感染源となつて患者を増やすことである。

#### 感染経路

HIV(ウイルス)は血液、男性の精液、女性の膈分泌物にいます。汗、涙、唾液、尿の中にはいない。したがって性行為、輸血、注射針の共用などで感染する。又、分娩時に母から子へも感染する。

#### 診断

感染してから血液の抗体反応が陽性になるのは、六週間から三ヶ月後となる。検査や相談は毎月各保健所で匿名、無料で行っている。一般医療機関でも検査は可能である。費用は約二〇〇〇円。

#### 治療

同じウイルスでも、HIVは麻疹やインフルエンザのようにワクチンをつくっても効果が無い。ウイルスが次々変身するからである。又、生涯根治しない。以前は感染して五〜一〇年の潜伏期間を経て発病し、治療法もなく、死亡する恐ろしい病気であった。しかし、新薬の登場によって現在ではHIVに感染しても、エイズの発症を抑えることが出来るようになった。だが簡単ではない。第一に、六十年間飲み続けなければならない。

第二に、薬の量が多く副作用も強い。第三に、治療費の高いこと。一人年間およそ二百五十万円必要である。掛け算をするだけで恐ろしくなる。その上、薬の効かない耐性を持ったウイルスが増えてきている。

現在若者の性の実態

二十歳未満女子の人工妊娠中絶数は、この三十年で約三倍に増加している。

日本性教育協会の調査結果  
性交経験あり

中学生 男 3・9%  
女 3・0%

高校生 男 26・5%  
女 23・7%

大学生 男 62・5%  
女 50・3%

性交時いつも避妊を執行

高校生 男 51・5%  
女 47・7%

大学生 男 66・0%  
女 65・9%

性交時感染症が非常に気になる

高校生 男 24・9%

麻薬中毒者。及びその疑いのある人。  
エイズ多発国の人。売春者。

②性交には必ずコンドームを最初から使用する。強いキッス、肛門性交、口腔性交を避ける。

妊娠が非常に気になる

大学生 男 9・3%  
女 34・1%

高校生 男 58・6%  
女 54・2%

大学生 男 64・8%  
女 68・8%

これでは、若者の人工妊娠中絶の増加は当然である。又、エイズなどの性感染症よりも、妊娠の方が気になっている。又、クレンジアその他の性感染症があると、粘膜に傷がつき易く、エイズ感染の危険性も増す。

対策

性教育というと、「うちの子には未だ早い」とか、「寝た子を起こすな」などと言う大人が未だに多い。これは「子どもに避妊を教えることは、子どもに性交を容認することになる」との考えがあるからだ。しかし上の数字を見ると、そんな悠長なことは言っていない。体は早く

大人になっても、心は子どものままなのだ。しかも、親はどうしていいかわからない。

子どもの幸せを願うなら、中学生に、英語や数学の塾へ通わせる前に、人間教育の一環としての、正しい性教育の機会を与えるべきだ。「知らぬは親ばかりなり」という事にならぬよう。

最後に、エイズは此の世から無くならない。若しHIVを偏見や差別で追い詰めると、感染者は検査や治療に行かなくなり、エイズは益々広がって行く。正しい知識を持って、社会が受け入れるような対策が是非とも必要である。(一六・一・三〇)

参考文献

京都保険医新聞  
平成十六年一月五日号  
どうなるエイズ  
近藤元治

感染予防  
①次のような人との性的接触を避ける。  
エイズ患者。男性同性愛者。



# 大人への道

大森 大輔

いくつもの雪の降る季節やいくつもの新年を何度も何度も経験したいけど、今年のそれらはいつもとは異なるものでした。

今年、僕は「大人」になったから。ただ坦々と時間に身をまかせてきた何もない日々も、成人式を迎えて今は、その一日一日がとて重く大切なものであると思うようになりました。

この由良の地で生まれ、たくさんさんの自然の中で友達と遊びながら過ごした小学校の頃。毎朝早くに起きて部活動に励んでいた中学・高校時代も今は遠い昔のこのように思えます。全てが昨日のこのようだけど、確かに時間は流れていたのだと思わせます。あの頃の僕は「大人になる」ということに嫌悪感を覚え、自分にとってはまだ遠い

先のことだと思っていました。

けれど、実際に今、僕は大人として認められ子供ではなくなってみたら、早く大人になりたいという衝動にかられるようになりました。自分はもう子供ではない。大人になることに嫌悪感を抱いていた頃の自分からしてみれば、想像もつかなかつたろうけど、今はそう思います。成人式を迎え、子供ではないと思うようになったが、大人でもないと思えます。自分は大人だと自信をもって言うことはできません。けれど、大人への道のりのスタート地点には立てたと思っっています。どれくらいの距離でどこにゴールがあるかは分からないけれど、今はただただ早くこの道のりを走っていきたいとそう思います。

こんなふうに、自分は子供ではない。早く大人にならなければと思わせてくれたのがこの前の成人式だったのですが、もう一つ僕はこの成人式で得たものがあります。

それは、仲間・友達の再認識ができたこと。日本列島のこんな田舎の市で生まれ育ち、他の街から比べれば、人数の少ない同級生達。けれど、どの街よりも僕は仲の良い友達であることを思いました。数年ぶりに会った友。連絡のつかなかった友。大喧嘩して口もきかなくなった友。けれど、再び会うと変わらないけれど、少し大人びた笑顔でいられた友。僕がこの二十二年間で得ることのできた最高の宝物。それを再認識できました。僕は今大学二年生でまだ社会への道は遠いけれど、昔、親友と呼んだ友達とは四月から社会人。大切な友達は、お互いを駆り立てあうライバルでもあります。きつと一人だったら、僕は未だ

子供と大人の境界線をさまよっていたでしょう。けれど彼等、彼女等がいるから僕は頑張っていけると思います。

時代は今、平和なのかどうなのか分からなくなりました。僕が生まれてからのこの二十二年間にもたくさんさんの事柄がありました。僕らがこれから先、生きていく時代は、平和の認識と自由というものの見方、日本という国の進む道などを考えなければならぬ時代だと思えます。そんな時代を日本人として人間としてそして一人の大人として、大切な友達と共に、あわよくばこの時代を変えられるほど大きな大人になりたいと思えます。

終りになりましたが、両親や近所のおじさん、おばさん、先生や多くの皆さんのおかげで成人になることができました。ありがとうございます。僕の名は大森大輔。この名に値するよう大きな大人になります。

## 二十歳を迎えて

岸田 祐佳

私は、昨年二十歳を迎えました。まだまだ、親のすねをかじって、学生生活を送っている私には、二十才という責任ある年令になつたという実感は、ほとんどありません。ただ、妹弟から、「おばさんになつたなあ。」と、からかわれるだけで、しつかりした姉というイメージも持たれていないんでしょう。

高校を卒業し、家から離れた時は、不安でいっぱいでした。知らない土地で、初めての集団生活。いろんな地方から来ている友達、何もかも自分で判断し、自分で行動し、その中で、自分という人間を主張し、生活していくのに、しばらくは心細く感じました。やはり、友達の影響は大きく、楽しく生活できるよ

うになり、規則の中で、お互いを思いやる、貴重な寮生活も経験しました。大きく見守られた寮生活とは違い、すべて自分でやっていく、一人暮らしも経験させてもらい、人生の中で、いつか今の経験が、役にたつ事があると思います。

そうして、成人式を迎える事になり、振り袖を、自分で着せたいという、母の念願であり、長い年月習って、実現させてくれた事は、私にも、何かをやり遂げるといふ、大切なものを感じさせてくれました。

出来上がった私の着物姿を見て、祖母は「俳優さんみたいやわ。」と喜んでくれました。が、妹弟たちは、ただただ爆笑していました。「その笑いは、何なん？失礼やる。」と、思いながら、おしとやかに、宮津会館にむか

いました。

久しぶりに友達と会い、着物姿、スーツ姿、いつもの格好とは違つても、みんな変わらなず、楽しい一日を過ごす事ができました。みんなと会えてよかった!!それぞれの近況を聞き合い、そして、また、みんなバラバラになつてしまった。

こんなにたくさん友達と、また会えるのは、いつだろう。

みんな、それぞれの夢をもち、今を頑張つて、楽しんで生活しているようです。

私の夢も、せまき門でありますが、目ざした以上、あきらめず、自分の力を信じ、やるだけ

はやりたいと思います。

みんな就職が決まってく中、あせりはありますが、頑張りたいたいと思います。しかし、妥協をしなければならぬものも、また人生なのでしようか。そのへんのくぎりや、いつつけなければならぬのか、考えながら、一日一日が過ぎていく。妥協し絶望とも、思っていない。その中で、また違う自分が、見つけれられるかもしれない。今、こうして、自分の思う事ができるのも、家族、親戚、そして、見守って下さる知人の方に、感謝できる二十才になつた事が、私の成長でしようか。

## 四方先生の「丹後由良写真集」に寄せて

山下 久子

写真集発刊誠にお目出とうございませう。

写真集を拝見しはじめたその

時、テレビからイラクのフセイン元大統領拘束の大きなニュースが流れた。しかしその事は後

回しにしてでも、この写真集を見てしまいたいと強く思った。

それは私が由良の村のほぼ中央にある大森(久四郎)の家に生まれ育ち、小さい時から「どもならず」として成長した文字通り「じねんじょう」だからかもしれない。

一ページ一ページを見ていくうちに、「見物する老人Ⅱ」(140ページ)のところで、ピタリと時が止まり、タイムスリップしてしまった。

そこに写っているおじさん、おばさん達は、私の親と同年令ぐらいの人達ばかりである。かつてのそのおじさん、おばさん達が目の前の畑にいたり、そこを歩いて通り過ぎたり、一人一人の特徴のあるあの声が、その当時のそのままに聞こえた。まさに動いて見えた。変に思われるだろうが、本当にそう見えた。

その家族の方々の事までも、ほぼ私と変わらない年令なので「わっ」と頭に浮かび涙さえ出

てきた。

また8ページの「昔の由良浜」の岩に写っている松の木には、多くの想い出がある。昭和27年、28年頃、私の中学生時代この岩の松の木を中心に全校生徒が記念写真を撮っている。中西房雄先生、中西国雄先生、今城先生、生徒達、皆若い若い。青春時代の話題はいっぱいある。

良き中学生時代だった。しかしその時もつとつと勉強(特に英語)をしておけばよかったと悔やまれるが、時ずでにおそしである。その松の木も昭和58年の写真(41ページ)の岩にはもう写っていない。枝ぶりもよかった。長い年月多くの出来事を見ていたであろう松の木に、せめて地酒の一本でも、その辺りにかけてやりたい心境である。また先生はあとがきに「きけ、わだつみのこえ」にふれられている。私の小学校高学年か中学生の時、全校生徒が宮津劇場の映画館に行き、その映画を鑑賞

した。確か「白雪姫」と二本だだった。感受性の強い年令だったせいかな、どちらの映画も未だに強く印象に残っている。

戦争は絶対にしてはいけないことである。

先代の井土先生にも、大変お世話になった。昭和18年私の母が脳溢血で倒れ、隣の栗田小学校から祖母に背負われて帰って来たのを、私は丹後由良駅の改札口で迎えた。十日程床につき他界した。井土先生には、その間往診していただいた。

私はその時、幼稚園児だったのだが、親が死線をさまよっているのに、先生が注射液の入った小さなアンブルを、ハート型のガラス切りで、ギーギーとこすり、「ポン」と割る音に興味があった。今もその音が耳に残っている。もう六十年も前の事になる。

あんな事があった、こんな事があったとこの写真集を見ると、随分昔の事が浮かび上がっ

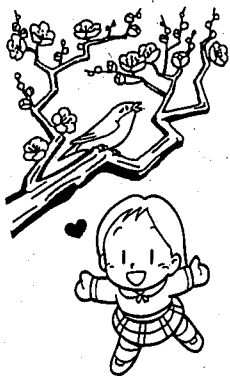
てくる。

由良に関係のある大勢の方々、それぞれの思いでこの写真集を拝見された事であろう。

由良にとつて大変貴重な宝ものが一つ増えた。写真集を拝見した直後(平成15年12月18日)書かずにはいられない熱い心境になり、素直に思った事を書いてみた次第です。

終わりにになりましたが、四方先生はじめ、ご家族の益々のご繁栄をお祈り申し上げますと共に、私たち由良に住んでいる者の健康を、何時までも見守って下さる事をお願い申し上げます。

(2003年12月18日記)



# 「安寿と厨子王の物語」 そのゆかりの地を訪ねて

福島県いわき市金山町 遠藤拓三

由良地区にお住まいの皆様方はご存じの通り、あの「安寿と厨子王の物語」のゆかりの地は由良地区に沢山ありますね。

実は、私の住む福島県にもゆかりの地が沢山あります。

安寿と厨子王の母が生まれた福島市渡利、安寿の祖父で初代磐城判官政氏の居城があつた福島市の椿館、安寿達がお参りした千手観音、安寿達の産湯を捨てた場所、磐城判官政氏夫妻の戒名がある三春町天沢寺、乳母の生まれた広野町、初代磐城判官政氏の居城があつたいわき市住吉御所、安寿の父政道が殺されたいわき市金山町の姥ヶ岳、その遺骸を捨てたのめし沢、血刀を洗った太刀洗川、安寿の遺品を埋めた姫塚、厨子王が父の政道の仇を討った後、舞台をは

り、亡き姉と父に勝利を報告し、共に戦った兵士の労をねぎらつて慰労会をやつた舞台等沢山あります。

父政道が姥ヶ岳で逆臣に殺された厨子王親子が、父が罪もないのに殺された事を不服に思い、当時の都のあつた京都に行き、朝廷に訴えようとして京都を目指し、安寿・厨子王、お母さん乳母の四人が、父の家来を伴つていわき市小名浜の住吉御所を出て、お母さんの実家のある福島市に寄つた後、新潟を目指して旅をしている途中、新潟県の寺泊海岸（いわき市に残る古文書では直江津ではなく寺泊になっている）で人買いに騙され、母と乳母は佐渡へ、途中乳母は海に飛び込み自殺する。安寿と厨子王は京都の由良の三庄太夫の

家に連れて行かれる。後は由良に残っている伝説や説経節とほぼ同じ物語が残っているのです。

私は三十六年間、中学校の教師として勤めて来ましたが、退職後ほつとしていたところ、金山地区の自治会長から「この金山は、安寿と厨子王のゆかりの地になっている。先輩達が苦勞して建てられた母子像があるのだから、町興しを兼ねて安寿と厨子王の物語の啓蒙をして行きたいのだが、遠藤さんが中心になり活動してくれないか」と言われました。父も母子像建設に関わっていましたし、家に資料も残っていましたので、父の出来なかつた事をやり遂げようと考え、初代「金山の昔を伝える会」の会長を引き受けました。

設置等でした。

こうして活動を続けている内に、この物語に興味と関心を持ち、よし、全国にある安寿と厨子王のゆかりの地を訪ねてみようという気持ちになり、平成十二年から十五年にかけて全国各地を訪ね歩きました。青森県岩木山、岩木町、弘前市。秋田県阿仁町、岩手県岩手町、新潟県佐渡、上越市。京都府宮津市、舞鶴市、京都市。滋賀県大津市。福岡の太宰府天満宮等、デジカメ片手に訪ね歩き、地元の方々に直接聞き、資料を収集しました。

中でも由良地区には二度行きました。この地区は由良の戸と呼ばれ、昔から風光明媚な所が多いですね。なにしろ、藤原定家撰とされる「小倉百人一首」に、「由良の戸を渡る舟人揖を絶へ 行方も知らぬ恋の道かな」と詠まれた一首があるほどですからね。

私の住むいわき市金山町も太

平洋に面した町で、しかも、安寿と厨子王ゆかりの地があるし、由良地区とは共通点があるようですね。

さて、次に、由良地区のゆかりの地訪問について、感想を交えて書きたいと思います。

「三庄太夫屋敷跡」一九八〇年に、由良の歴史をさぐる会と由良観光協会の方々により建てられた案内板があり、訪れる人には大変わかりやすいものであった。太夫は規模から推察して、相当の勢力を持った豪族だったらしいと言われている。

「安寿と厨子王の像」安寿の里もみじ公園に立っているが、安寿が笠を手にした旅姿で、厨子王は右手で指をさしている。母を訪ねて旅を続ける姉弟の苦労と仲の良さがにじみ出るような良い表情をしている。後方には由良岳が見え、駐車場も広く、良い場所に立っている。

「北野御膳宮」丹哥府志にも書かれているが、人買いの宮崎

三郎の舟から降ろされ上陸した所と言われている。安寿と厨子王にとって全く知らないこの土地で、不安と恐怖心にさいなまれたであろう。由良川河口に立ち、つい涙ぐんでしまった。

「如意寺と金焼地蔵」運良く如意寺の金焼地蔵堂が開いており、地元の人達も数人おいでになり、生の声を聞くことが出来た。安寿と厨子王が太夫の焼金を額に当てられた時、この地蔵のご利益か、額の傷が消えていたという言い伝えがある金焼地蔵を、ご住職に特別に拝観させてもらった。

身の丈三十センチ程。確かに体に二つの焼き痕と槍の傷痕の様なものがついていた。

「山椒太夫首塚」説経節によると、太夫は息子の三郎に、竹の鋸で首を切られ死んだことになっていて、その首を如意寺の境内に埋め、祀ったのがこの首塚だと言う。

「首挽松の碑」由良の歴史を

さぐる会による案内板があり、すぐにわかった。宮津から由良に通じる七曲八峠の道路沿いの小高い丘の中腹にあるが、ここから汐汲浜も見えた。南無妙法蓮華経唱題三千部と書かれた碑が立っていた。ここで太夫が息子の三郎に竹の鋸で首を挽かれて死んだという。悪の報いとは言え、自分の父の首を挽く三郎の気持ちはどうだったのだろう。説経節にはこの様な残酷な場面が出てくる。確かに人間にはこの様な残酷さがあるなあと感じた。

以前は蛇のウロコ肌を思わせる古い松の木があつたが、今は立っている石碑の二倍位の高さの松の木が植えられていた。

「柴勧進の碑」首挽松の碑の右側に、厨子王が慣れない柴刈りに泣いているのを、村人が哀れんで少しづつ刈り集めて持たせてやったと言われる所で、奉納大乘妙法典経六十六部供養塔と書いた石碑が立っていたが、

六十六部と言うのは、半僧半俗の語りべで、聖と呼ばれる旅人だったらしいが、その聖達は六十六部の法華経を書き写し、全国をまわり、六十六国の霊場に一冊ずつ奉納して歩いたというから、六十六国の霊場は国分寺でもあったと言われるので、あつたのはここが国分寺跡なのかもしれないですね。

「汐汲浜」安寿が一日三荷の塩水を汲んだと言われる浜で、安寿汐汲浜と書いた石碑が立っていた。夏休みで海水浴をしている家族がいたが、男と女の子が、安寿と厨子王に見えた。安寿も厨子王も太夫の息子三郎に命令されたのであつた。

「森鷗外文学碑」汐汲浜のすぐ近くに立派な石碑が立っていた。一九七九年に建てられたもので、森鷗外の山椒太夫の一節が書かれている。あまりに大きいので、碑文も読めるようにしようとして、写真に納めるのに苦労しました。

「城島」由良川の中州にあるが地元の人に聞くと、元は一つの大きな島だったそうだが、河口工事の時に大部分が削り取られたとのことだった。ここは太夫の馬場や作業場があった所で、向こうの小高い山は、奴婢達の見張り場であったとのことだ。しかし、場所的には少し疑問点が残った。

以上ですが、地元の者でないので、色々ご指摘される面があるかもしれませんがご了承下さい。

この安寿と厨子王の物語は、平安時代のもので、千年も前の話ですが、今でも語り継がれているのは、安寿親子は、親は子を思い、子は親を思い、固い絆で結ばれていた家族愛があったからだと思います。

この物語は、親子の断絶とか、家庭崩壊とか、キレる若者、幼児虐待、簡単に人を殺してしまおうといった今の世相に対して、何かを訴えている様な気がしま

す。私達大人は、この物語を風化させることなく、後世に伝える使命があると思います。

全国にあるゆかりの地を訪れて感じることは、この物語に関してこれだけ多くの伝説の地があると、もう単なる架空の物語とは言えない気がします。いわき市の郷土歴史研究家だった岡田実氏や水沢松次の研究発表の通り、実話だったのではないかと思います。多くの方々がこの物語に関心を持たれ、親子の在り方等について話し合うきっかけになればいいなあと考えています。

最後に、素晴らしい「由良公民館だより」を発行されている皆様と、私の著書「安寿と厨子王ゆかりの地を訪ねて(改訂版)」発行の折、お世話になりました。「由良の歴史をさぐる会」会長の四方寿朗氏の、これから益々活躍をされることを紙面借りて祈願致します。

(二六・一・一一)

## 旅は気儘きままに

パート11

### 丹後由良ターミナルセンター

#### 吾が駅舎に独り言

##### 〜旅日記より〜

すでにご存じの方もおられると思いますが、昨年十二月に永きに渡り放置されておりました、駅舎南隣にあった旧国鉄時代の宿舎が取り壊されました。

跡地は、何か有効利用出来ないものでしょうか。

最近よく耳にするのが、駅舎内にある喫茶店も「せっかくスペースがあるのに勿体ないですな」という言葉です。

長引く不況で倒産など相次ぐ中、丹後由良にも路線がありま

古き佳き時代の物が段々となくなり、新しくなるのも便利ではありますが、傍らでは消えてゆく物も少なくありません。

駅舎待合室に置いてあります旅日記に書かれていました文面を、拝借させて頂きます。

〇二〇〇三年十一月三日

全駅下車の一環で降りました。今日は、可部線廃止の日ですが、あの混雑が嫌いなので、こっちは来ました。東北新幹線のカフェテリアも今日限り、車内での食事がますますしにくい時代ですな。

ここも駅前食堂が休みで、何も食べるものがない。

丁度、ストーブが出されて点火された。

今回は全国ほとんど無人駅となり、かつてはあったストーブ

も、ことごとく撤去された。

そのせいで、冬は寒くて仕方ない。駅員もおらず、ストロブもないために、下車した客が、そのまま遭難死する事件も起こる時代。

鉄道は誰のため、何のために走っているのだろうか？

国民の人権を守るため、末永く走り続け、駅員も居続けてほしいものです。

北近畿タンゴ鉄道の御健闘を祈ります。

○二〇〇三年十二月二十三日

硬券入場券購入の為に来ました。今日中に北近畿タンゴ鉄道の全ての入場券を買う予定です。

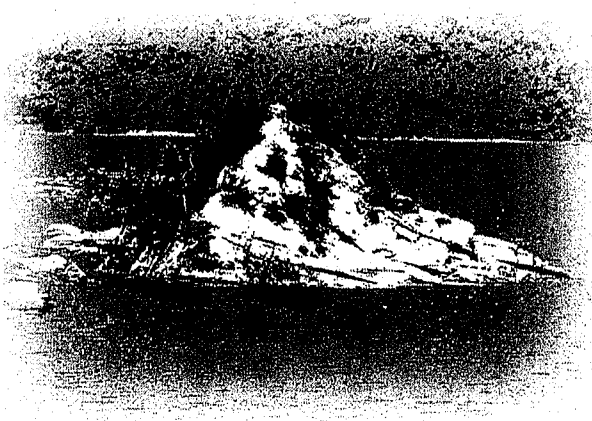
やっぱり切符は、硬券ですよね。もうJRでは、売っていませんから僕にとっては、レア物です。僕が中学校の頃までは、JRでも硬券が買えたのですが……今は、私鉄&第3セクターのみです。

来週か、正月休みを利用して次は、若桜鉄道の若桜駅へ行っ

て来ようと思っています。

硬券とは、券売機で購入する切符ではなしに厚紙で出来ている昔からの手売り切符です。

今は、自動改札となり、全てコンピューターまかせとなった中で、手書きで書く乗車券も、今では、めずらしくなくなってきました。



## 川柳

残照に海は無言で癒される

坂本 妙子

コップから溢れた水が愚痴を言う

珍客に胸が騒いで未だ女

同点というおだやかな風という

大森 美智子

青雲のポケットの中にある炎

下書きのまま黄昏れて行くいのち



## 追悼

元由良地区公民館長 小松忠衛氏は病氣療養中のところ去る一月二十六日永眠されました。享年八十二歳でした。

茲に謹んで哀悼の意を表します。

氏は、昭和六十年六月から平成二年九月まで五年間公民館長としてご立派な人柄と卓越された手腕を発揮され公民館運営にご尽力されました。

地域づくりを主題とした「土曜座談会」の開講をはじめ、地域の人々が健康で生きがいのある暮らしをつくるため、スポーツ、文化活動の推進に努められ地域のニーズにあわせた生涯学習の拠点としての公民館活動に対する功績は多大なものがあります。

地域とともに生きられた氏のご冥福をお祈りいたします。

## 経ヶ岬から潮の岬まで

(その一)

四方 俊一

黙々と歩く、黙々と歩く、一日昨日も歩いた、昨日も歩いた、今日も歩く、明日も歩く、毎日歩く、私が運動として毎日歩き始めたのは四十五歳の時であつ

た。学生時代から遠ざかっていた運動を再認識したのは病で一年間入院生活を送り健康管理に関心を持つてからである。学生時代は山岳部に籍を置き曲がり

なりにも歩く事の基本を身に付けていた積もりであったが、何時しか仕事の多忙にかまけて忘れ去っていた。「歩く可し」少々遅きに失したが再度歩き始めた。自宅から通勤先まで二キロメートルを三十分かけて歩いた。それがやがて二十分で歩き通常の歩きに回復した。歩く事に興味があつたと次の「歩き」に発展する。各地で開催されるツアーデーマーチに参加することに興味を覚え加古川、長浜、北陸、越前、三方、富士山ろくど参加し体力があつてきた時には五十歳を迎えていた。歩き始めて既に五年経過していた。五十歳、五十歳、五十歳と言えば人生の後半に入っている、この辺りで私の人生の「印」をと考えたのが事の始まりであった。「経ヶ岬から我が家迄」歩いてみよう。しかし、これがとんでも無い事になろうとは……。

四月の末から五月の連休にかけての休日を利用し事の運びと

なつたのである。「経ヶ岬灯台」、この地は京都府の最北端、近畿の最北端、丹後半島の先端にあり、沖を行く船の航路表示となり明治三十一年(一八九一)設置された灯台である。標高二百一米山陰第一の大岬、この岬周辺は岩石多く昔から北前船の難破船多く難所であつた。海側からこの岬を見ると経巻(お経の本)を立てたる様に見えることから「経ヶ岬」と称し、北前船の船頭達はこの岬を通るときはお経を念じたと云う、それ程この海域は大変な難所である。この地から大海原を眺めると北前船の海の男の赤銅色に焦げた正念場の顔が明滅する、この地が竹野郡と与謝郡の境界であるところから「境ヶ崎」と称したと云う説もある。同じような難所は静岡県の御前崎にあり表面は平穏な海に見えるが岩礁と海流の渦巻く航海上の難所である。ここも御前崎灯台が設置されている。このように大変な難所の



安全航海を期するため重要な役目を果たす灯台であるが最近の例ではロシアのタンカーが座礁したのも耳新しい。

時は一九八七年四月の二十八日午後一時、この岬にある白亜の灯台を出発した。一人用のテント、食糧、炊事道具、下着類を合わせてザックにして背にした。灯台から山道を歩き国道一七八号線に出て初めに丹後海陸KKの土産物店の食道で遅い昼食をとった。国道一七八号線は時々自家用車が走行する程度でひっそりと静かな通りである。そこに突然四く五頭の野猿が国道を横切り左手の山(岳山)へ逃げ込んだ。野猿がいるとは聞いてはいたが正に幸先の良いお出迎えである。野猿よ何処へ!!と藪を覗き見るが影も形も消え失せていた。

まだまだ調子が出ないが「袖志」に向かった。「袖志」昔は「袖石」と書いたと云うが袖志は海岸地形語である事は確かかなよう

であり、海女集落であつて元禄年間(一六八八〜一七〇三)徳川綱吉の頃から海女を職とする人達が多く、西は因幡から東は越前海岸まで出稼ぎしていたと云われていた。又、この地には、文化年間(一八〇四〜一八一七)に但馬牛を飼育改良して宇川牛(権九郎牛)と名付けてその名を天下に轟かせた小西権九郎翁の記念碑が立っている。耕耘機の無い昔は田畑の耕作に欠く事出来ない家畜であり人の生活する同じ屋根の下に「厩」を作り飼養管理していた。其れは昭和四十年代まで続き、現代の衛生環境の整った生活からは考えられない生活であつた。

更に西進すると「穴文殊」があり、この文殊菩薩は経ヶ岬の海心洞に安置してあつたものを慶長十五年(一六一〇)に現在の地に遷仏したと伝えられておりもとは真言宗の寺院であつたが、現在は曹洞宗万福寺の境外仏堂で丹後三文殊の一つとして

信仰を集めている。

足は弾む、「丹後松島」と称される景観の良い海岸洲を心軽やかに国道一七八号線を更に進む。右下方に見える漁村、それは「久僧」、伝承によれば、貞治年間(一三六二〜一三六八)現在地より南三〇〇米の山間に百戸余りが農業を営んでいたが永禄年間(一五五八〜一五七〇)大暴風に遭い、付近の山地が崩れ、集落の過半が土砂に埋没したので、現在地に移転して農業の傍ら漁業を始めたと云う。さてこの「久僧」の語源であるが「久僧」は「糞」に通じると云われ、古代人は汚賤、糞名をもつて、悪霊を近づけず、諸々の危害を防ぐ一種の能力をもち、いかなる疫神・邪心も、これを避けて素通りすると云う信仰をもっていた。そこで敢えて「糞」の地名を付けたと云うのである。ところが宇川の中流、野間の東方に「竹久僧」、弥栄町の「金久僧」という地名がある、それは古代の「製

鉄所」に関連が有り「金久僧」は砂鉄から銑鉄をつくり、その「鉞滓」を捨てた土地と云われ朝鮮半島渡来関係の人であつたのではなからうか?漁村を後に足は快調に進む。

次が国道一五八号線と別れる「平」の交差点、ここから大宮町の五十河へ抜ける道を辿ることになる。「平」は自然豊かな宇川の河口に位置し人口四〇〇人弱の過疎の村である。近年機業従事者が増加したが、夏の海水浴客相手の民宿も多い、白砂青松の平海岸は海水浴場に適し、ハマナスの群生地である。海岸砂丘地には縄文前期から古墳時代にかけての平遺跡が有り、西南の山腹には平城址が有る。又、この地には八幡神社があり創建時期は不詳であるが、保元三年(一一五八)十二月三日付官宣旨(石清水文書)に石清水八幡宮宿院極楽寺領としてみえる「丹後国平庄」が当地に比定されるので、その関係から八幡宮が勧

請されたものと推測される。宇川は天然鮎の棲息地として知られ、京都大学動物物教室が十年に渡り調査したのは有名であり、今も自然保護の立場から保護対策が考えられる。

ここで国道一七八号線に別れて左折し宇川沿いに上流に向けて歩みをとった。「宇川」は丹後半島の背梁地をなす高尾山・金剛草童子山・太鼓山めぐる谷々の水を集め、深い溪谷をなす野間谷を北流蛇行して、依遅ヶ尾山東麓に達し、平の海岸に雪崩るように流れ下がっている。「宇川」とは穿川の意である。そしてそのことは丹後半島西部から北部にかけての山地の隆起運動、それに伴う川床の上昇、そこを穿ち流れる宇川の穿入蛇行と、強ち無関係でない。それに沿って道路がある、時々行き交う車、時たま畑で農作業に勤しむ農夫、長閑である何処までも五月の空は青く澄み切っている。宇川の谷を弥栄町の川久保に向けて只

ひたすらに歩いた。

「川久保」で日が暮れた。テントを設営して食事準備にかかると。この旅を始めて最初の野宿であるが幸いにも好天に恵まれた。空には満天の星座である、空気が澄んでいて本当に星が美しく見える、人家が無いので明かりが無く山の谷は真つ暗であった。宇川のせせらぎが僅かに聞こえる程度で本当に静かであった。明日は、宮津迄一気に歩かなければならない静かに休む。

有名な探検家、植村直己氏でさえ体を鍛えるために歩いたと云う、彼は日本縦断を数回にわたり行い、それによって自信を得た。「歩く」ことは体を鍛え人を鍛える。肉体的に精神的にも鍛える。学生時代は歩いた、一ヶ月、それは長かった、十人程が歩く、山の嶺から嶺へと縦走する。食糧を、装備を、各々が分けて持ち運ぶ、今は良くなって即席食料品が有り行動が容易になった。現に今、私のザックに

は寝袋、衣類、インスタントの食料、一人用簡易テントを詰め重量は四五キロから五十キロになる。この程度なら背に耐えられる重さである。二十歳代は若い故に六十キロ位の物を背にして歩いた。若かりし時代は少々の重さにも耐える事ができるが老いたる今は無理が出来ない。無理は禁物、慎重に重量を計算して衣類と即席食糧で調整する。人里を歩く故に買えば調達できる。山とは異なり荷物の軽量化は容易であった。

自然の中を歩き、森や山や川原で夜を過ごすことは楽しくたちまち病みつきになる。勿論、そう考えるのは私一人だけではない。同じ思いの人がすでに数多く存在し、それを記録に、文章に書き残してくれた先輩達も決して少なくない。人にはそれぞれの趣味もあれば楽しみもある、この楽しみに「歩く」という行動を加えることは「健康づくり」に連なることで私は歩け

る機会をとらえてあるいてきたつもりである。しかも歩く所を勉強し又、歩いた後、振り返り勉強することは歩く事を一層に楽しくする。(次号に続く)



# 一年間を振り返って

由良婦人会 副会長 岡田 たつ子

今年の冬は暖冬だと言われて  
いましたが、一月は結構寒い日  
が続きました。月日の経つのは  
早いもので、由良婦人会の副会  
長を受けてから一年が過ぎよう  
としています。

何もわからないままに、会長  
の吉田さんについていくばかり  
で、あつという間の一年でした  
が、色々な行事に参加して、少  
しは成長したかなと思っていま  
す。

最近では婦人会活動も、会員の  
減少とか他にも色々な問題を抱  
えています。メリットがないと  
か言い出すときりがありません  
が、ある程度のボランティア精  
神も必要かと感じています。

私個人としては、色々な世代  
の方と知り会えたり、行事に参  
加する事によって、社会の仕組

みや活動が少しはわかる様になっ  
た事が良かったのではないかと  
思います。無駄な様に見えても、  
何か後々役にたったりすることに  
もあります。小さな卒にこだわ  
らず、若い人達にも是非参加し  
てほしいと思います。

行事への参加を呼びかけた時  
気持ちよく「参加させてもらい  
ます」と言ってもらえた時は、  
本当に嬉しかったです。今まで  
は、頼まれる側についてわかりま  
せんでしたが、頼む側になって  
みると、思いやりのある言葉や  
励ましの言葉がありがたくて、  
これからは出来る範囲で何事に  
も気持ちよく参加させて頂こう  
と思えました。

夏の宮津総踊り大会では、由  
良婦人会から十九名もの参加が  
あり、脇の自治会さんからハッ

ピをお借りして、私も初参加な  
がら、大いにはりきり楽しませ  
てもらいました。他の連の方達  
のお揃いのユニフォーム(すご  
く派手でびっくりしました)や  
かけ声に圧倒されながら、息を  
はずませ一生懸命踊りました。  
婦人会の先輩方、物覚えの悪い  
私たちに、根気よく丁寧に教え  
て下さってありがとうございます  
でした。

秋の地区運動会、敬老会、文  
化祭は由良地区全体の行事で、  
大変さもありますが地区の皆さ  
んとふれ合う良い機会です。不  
慣れな分、色々な面でご迷惑を  
掛けたりしましたが、反省も含  
め次年度の役員の方に引き継ぎ  
たいと思います。

若い人達の新しい発想や意見  
で、由良婦人会が楽しく有意義  
な会に発展して行けたら、会員  
減少にも歯止めがかかると信じ  
ています。

一年間過ぎて、各支部役員の方  
達とも、すっかり顔馴染みに

なり打ち解けました。今まで顔  
見知り程度で話した事もなかつ  
た方でも一緒に行事をこなす内  
に親しくなれた様に思います。  
忙しい一年でしたが、家族の  
協力もあり有意義に送る事が出  
来ました。

最後になりますが、地区の皆  
様ご協力ありがとうございました。  
これからも由良婦人会が益々  
発展出来ますよう、よろしくお  
願い致します。



# 長崎県・川棚かわだなの町を通りぬけて

濱野路 大森 孝

(一)

今、此処を通ってるんだ。確かにこの町は「川棚」の町であり、とうとう私は、六十年たつてやっと懸命に矢面にたつて生きぬいていたあの昔の町に戻ってきたんだ。それにしても、東彼杵そのまきの山稜やまなみを、こうして妻や娘や孫と同じバスに揺られながら、佐世保にある『ハウステンボス』へひた走りながら……私は大凡六十年前の思春期の十五歳の時に頭の中は還っているのだが、その頃、識ることもなかった妻の範子や、無論生まれてもいなかった娘の真知子や、況んや孫いいのか。全く別世界であり、非現実の世界であり、相通じる「あいことば」すらない次第である。

不思議な取りあわせとなった家族旅行であった。私は海軍の生活を送った、東彼杵の土地でのひたすら懸命に生きた思春期の大切な時間を思い出すことが出来た。本当は海軍三種軍装の軍帽位被って、小さな軍艦旗でも携行して、海軍の生活を回想すべきなのかもしれぬが、隣の妻には、『長い町並みだな。(川棚町は)「岩滝」を思い出すな。片側が海に沿っていて、街村だからな』妻『街村って?』私『あく街村は地理的分類で、少しまとまった路村のことだ。』妻『何言うた?路村って?』私『もう止めた。雨の中の川棚は、スーパー・ストアもあるし、ガソリン・スタンドもできている。もはや六十年昔の、私が見慣れていた『川棚』(それも海岸線だけ)で

はなくなっているのだ。海岸べりも、草木でさえ、僅かに時間を過ごした昭和二十年のものとは違っているのだ。

私は見逃すまいと、必死で雨に濡れる窓を、バスの中から掌でごしごしぬぐっている。妻に語る時間も惜しまれて、とうとう、海軍の特攻基地『震洋』が終日激しい訓練を重ねていたこと等伝えることさえできず、街の景色がどんだん後へ去って行くのを、寸分見落とすまいと眼を凝らして、バスの窓にへばりついた。窓外の街並みは、ひよつと『栗田の小寺』あたりを思わす景色もあったが、ほぼ岩滝のように繁栄した拡がりが見られた。こうして、山あいの「佐世保市」との標柱が左側に立っているあたり迄は息を呑み乍ら、街の姿に釘づけで過ぎた。気持ちが高ぶっていて、十重二十重の感慨に浸っていた。こうした感慨はたえようもなかった。一方、前の席の娘達は何を話

しているのか、眠っているのか。それでいい。四人の中で、活々と醒めていたのは要するに私一人だった。

(二)

話は五十八年昔の昭和二十年に戻る。十五才の私は、念願叶って首尾よく海軍兵学校に入校して、海軍生徒として三月二十八日より四ヶ月を川棚の対岸針尾島で生き抜いていく。五月三日に、満十六才を迎える。祖国日本を守り、海軍兵学校七十八期将校生徒として、誇りに満ちて、思春期の少年が誰に頼るでもない時間を体一つでこらえて生きた。戦局は急迫していて、入校式あたりは、米軍の慶良間諸島への艦砲射撃がはじまり、私共の入校教育は沖繩本島での戦闘が激烈を極め、私の十六才の誕生日を迎えたころは、戦艦大和が巡洋艦・駆逐艦などを引きつれて捨て身の特攻攻撃をうって出た。そんな沖繩を守る戦闘の期間中に、針尾島の兵学校で、米軍

空襲攻撃（主として佐世保軍港への空爆）に耐え乍ら、兵学校教育の課業に服務していた。帝国の必勝を信じて、心をはげまして、少年達は歯をくいしばって生きつづけた。

岡部直人君（後年広島市で測量設計事務所をひらいた会社々長）は三〇三分隊で、席次も近く、それに何より熊本県天草中学（旧制）出身の彼は、偶々私より一才年長で、長崎県大村市に当時在った海軍大村第二十一航空廠へ、天草中学生として学徒動員で働いていた。そういう中から、海兵を受験して、入校してきていたので、川棚の海上特攻の訓練基地のことは詳らかだった。

或朝、起床後引きつづいて始まる海軍体操（堀内豊秋大佐指導。元海軍メナド降下部隊指導官。敗戦後オランダ戦犯として銃殺刑を受けて刑死）それが終わって食堂へ駆け足で向かう。その帰途、語ったところでは、『薄

い板で作った舟艇で、爆装してあり、猛スピードで海上を疾駆して、敵艦に体当たり攻撃をする。海軍の秘密兵器なんだ。こうして、早朝から、繰り返し猛訓練をしているんだ。』流石に彼は、『震洋』という呼称は知らなかったように思う。その外は知らないものはなかった。

この東彼杵や島原半島、天草の島々は、確かに珍しい地形で、北アメリカ大陸のカリフォルニア半島のように火山によって形成されたものであるうし、岡部生徒の天草島よりすればまさに手の届く近所であり、ホームグラウンドであったに違いない。

岡部君は東彼杵半島や針尾島の解説をよくしてくれた。ところが、栗田の航空隊を見て育った私にとつては、東京や満州や台湾から入校した期友とは又一味違って、川棚の『震洋』特攻の訓練は容易に理解できた。隣りの栗田には海軍の第三十一航空廠がおかれ、水上機の訓練は、

毎日見馴れて聞き慣れていた。兵学校から基地『川棚』迄の距離はと言えば、由良の北戸口あたりから、対岸栗田湾の中津位のもので、岡部君の生い立ちも私と似たようなもので話はよく判る。

『震洋』はそんな風にして、迫りくる対米決戦に備えて、兵学校の一限目の課業の始まる頃には、轟音を針尾島に迄響かせて全速力で標的めざして疾駆していた。どんな乗員がやっているのかな？とも思ったし、敵艦に巧く当たれるかなと思った。十六才になる迄の戦世に育った私は、『震洋』特攻攻撃を避けられぬ強力な戦術と受け入れていたのだった。

### (三)

この旅行は平成十五年二月二十八日に長崎市内見学し、翌三月一日佐世保市の『ハウステンボス』のテーマパークへ行くための家族旅行。その道すがら雨の中を川棚町を通りぬけたこと

である。

なんと大村湾に突き出た岸があつて、晩翠というべきか繁つた森があり、そこが水田の先端ともなつて、嘗て『震洋』が見えなくなつた木々の繁みがここだったのかな？否もつと大きな岬角があらわれるのかな？半ば想像をふくらませ乍らの、五十八年前の秘処探しの一瞬であつた。それから同じ旅をした孫娘ですら、当時の軍隊体験をした私より、二才も年かさの十八才になつて、東京の聖心女子大学生となつている。こんなことは、全く想像すらできなかつた。私の晩年の展開である。これもあわせて、長崎バスの車中で私の心をとらえて離れなかつた川棚へのこだわりと共に。

※今一つは由良出身の升井トヨ子という方が、昭和十九年十一月三日に、長崎県大村市の第二十一航空廠で、米軍の空爆で、戦没されている。ここに謹んで哀悼の意を捧げたい。（この事は、字宮本二六六五の坂根虎一氏より承つたものである）

# 由良の地名 その九

小谷 一郎

由良のとを渡る舟人かちを絶え行方も知らぬ恋の道かな

これは、百人一首の中に入れられていて、平安時代の歌人曾祢好忠の作った和歌であることは、由良の人はよく知っておられることだと思えます。(岩波文庫本「王朝秀歌選」参照)

この歌に詠まれていた由良という地名は、一体、何処にある由良をさしているのかということになると、本当のところ、はっきりしないのです。この由良という地名が(箇所でないところが問題です。そこで諸々の説明がその土地、々々で行われることとなります。処が、現在のところ「丹後の由良」が、この歌に詠まれている「由良」であると考えてよいのではないかとい

う説を支持する人が多くなってきていることは確かです。例えば、京都書房刊、三木幸信、中川浩文共著、評解「小倉百人一首」増訂版には、「丹後掾であつたので」ということを主たる論拠にしてか、「淡路島にも和歌山県にもあるが、作者丹後掾の任地から丹後と考える。」と述べ「任地丹後で得た実感をもとにしたものであるうが」と、「新鮮な表現」として感嘆されたあとが明らかにされているのです。(同書四六頁)三木幸信先生は文学博士であり日本文学史の専門家でもある人であります。処が、曾祢好忠が、任地であるとして丹後国へ下ってきたという史料はないのです。それで「由良の地名」その三 丹後と紀伊の由良を書いたとき、「二つの考え方

をお示ししておいたのです。それは、「当時、資格はよいが、表立っては余り人気のない権門家に入りしており、その人の力によって丹後掾の官職を授けられ、それに相当する給与を受けていたのではないかということとです。」という考え方を示したのです。

掾という役職については「大い小あつてジョウとよむ。またゾウともいった。古今集に文屋の康秀が、三河のそうになりてと見えている。掾は四部官の判官であるから、マツリゴトヒトともいった。……中略……国司の任期も……中略……一年でも二年でも年限を延べられることがあつた。これを延任という。……中略……また四年の任期がたつても、なお引きつづいて勤めるのを重任ちゆうじんという。」のです。(講談社学術文庫版 和田英松著「新訂 官職要解」一七一頁)

掾は中国である丹後国では定員は一人で職田(町二段)、を給

されたのです。(前同書一七二～一七三頁参照)

曾祢好忠の作った和歌が、勅撰集に撰入されたのは「拾遺和歌集」がはじめでした。

勅撰集のうち八代集という通名で知られる和歌集があります。その八代集を年代別に列べますと、次のようになります。

古今和歌集 (九〇六)

後撰和歌集 (九五五)

拾遺和歌集 (一〇〇五～六)

後拾遺和歌集 (一〇八六)

金葉和歌集 (一一二六～七)

詞華和歌集 (一一五一)

千載和歌集 (一一八八)

新古今和歌集 (一二〇五)

勿論これ以後も撰集の事業は続けられ、二十一代集と呼ばれる和歌集があります。

拾遺和歌集は、寛弘二年(一〇〇五)頃撰集されましたが、これに撰入されている好忠の歌をみますと、

三百六十首歌のなかに (八三三) 我がせこが来まさぬ

宵の秋風は来ぬ人よりもうら  
めしきかな

三百六十首の中に

(一八八) 神なびのみむろの山  
を今日みれば下草かけて色づ  
きにけり

(一一一一) 秋風は吹きなやぶ  
りそ我が宿のあばらかくせる  
蜘蛛のすがきを

(一一四四) み山木を朝な夕な  
にこりつめて寒さをこふる小  
野の炭焼

(一一四五) にほ鳥の氷のせき  
にとぢられて玉藻の宿をかれ  
やしぬらむ

など、合わせて九首があります。  
寛弘二年の頃には、好忠の歌は  
三百六十首という一とまとめに  
された形で伝えられてきたので  
しょうか。そしてこれを基にし  
て、世に所謂「曾丹集」が出来

上がっていったのです。

今、入手できるものとして、

群書類従本「曾祢好忠集」があ  
りますが、由良の戸の歌は、好  
忠集内の「百首和歌」の中に  
「恋十」(恋の歌十首という意  
の書き出しであると思います。)

の一首目に出ているのを見るこ  
とができます。この歌の由良は  
土地の由良であることよりも「行  
方も知らぬ恋」の序詞の形成に

力を与えるための由良でありま  
す。その由良は、棹緒かじおの絶える  
ばかりに波の激しい由良、舟を

漕ぎ渡るのに危ふさを覚える渡  
りでありました。紀伊の由良を  
見ましたが、こじんまりとした  
風待ちの港でした。棹緒の絶え

るような荒々しさは、微塵も認  
められない静かな港でした。  
昨年は淡路の由良を訪れるこ  
とができました。由良湊は、古

来、淡路における海上の要衝で  
あり、紀伊の友島の間の海を「由  
良の瀬戸」と称んできたのです。  
この海を往来する白波を見なが

ら、矢張り、此処であったと信  
じてきた「由良の戸」の景観を  
実感したものでした。そしてこ  
の「由良の瀬戸」海が鳴門の渦  
潮と一つになる海でもあったの  
です。

好忠が本当に孤独な世に受入  
れられない人物のように伝えら  
れていますが、果たしてそうだっ  
たのですか。拾遺集の

物へまかりける人の許に  
人々まかりてかはらけと  
りて

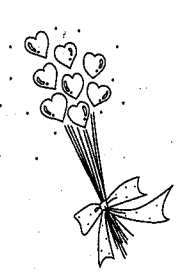
(三〇四) 雁がねの帰るをきけ  
ばわかれ路は雲井遥におもふ  
ばかりぞ

を読んでどうですか。ただ、自  
分の「丹後掾」補任が、正規の  
赴任を伴うものでなかったから  
喜びを表したり、「かはらけ」を  
とつたりできなかったのかもし  
れません。(平成16・2・8)



# お知らせ

法務省主催全国中学校人  
権作文コンテストにおいて、  
栗田中学校三年生北野加奈  
子さんが、見事KBS京都  
賞を受賞されました。



標語

今日のじつ

お家の人に



話そうよ

「ありがとう」

感謝の気持ち

忘れずに

あいさつで

楽しい一日

始まるよ

由良幼小PTA母親委員会

編集後記

今年も成人式での若者の脱線振りが話題となり告訴という問題が発生しています。

由良小学校を含め市内各小学校で警備員を配置する日がありました。各地で子供たちが被害に合う事件が起きる現在、当然の措置であったとしてもこんな世情が残念で堪りません。今回もたくさんの方の原稿をお寄せいただきました。

四方俊一さんの「経ヶ岬から潮岬まで」約五百キロの一人歩き、次号からも楽しみます。九十歳と聞いても驚かない。

今全国で九十歳以上は約八十四万人、由良地区でも十五人前後健在と聞きます。

「公民館だより」百二十号をお届けしますがいつまでも読んでいただけるよう願っています。

(飯澤)